

## 改訂版エコアクション2.1 環境への負荷の自己チェックシート

## 1. 事業の規模

期間： 年 月 ～ 年 月

活動規模	単位	年	年	年
生産高	百万円			
売上高	百万円			
従業員	人			
床面積	m <sup>2</sup>			
( )	( )			
( )	( )			
( )	( )			

## 2. 指標ごとの取りまとめ

## ①二酸化炭素排出量算定のためのエネルギー使用量把握

		単位	年						排出 係数 (任意)	単位 発熱量 (任意)
			月		月		合計			
			量	金額 (円)	量	金額 (円)	量	金額 (円)		
二酸化炭素排出量	電力	電力使用量 (購入量)	kWh							
		電力会社名	—							
		発電量	kWh							
		売電量	kWh							
		電気 小計								
	化石燃料	灯油	L							
		A重油	L							
		都市ガス	m <sup>3</sup>							
		液化天然ガス (LNG)	m <sup>3</sup>							
		液化石油ガス (LPG)	m <sup>3</sup>							
		ガソリン	L							
		軽油	L							
	化石燃料 小計									
	その他									
		その他 小計								
エネルギー消費 計										
その他										
	その他 小計									
二酸化炭素排出量合計										

○LPGの消費量をkgで把握している場合については「1kg=0.483m<sup>3</sup> (気体)」として換算してください。○LNGの消費量をkgで把握している場合については「1kg=1.22m<sup>3</sup> (気体)」として換算してください。

○「エネルギー消費」に含まれる「その他」には、「熱供給 (蒸気)」及び自らが焼却または燃料として使用した廃棄物 (例:「廃油」及び「廃プラスチック」等) があります。

○バイオマス発電等については、必要に応じて別表を作成してください。

○上記に該当しない項目で投入しているエネルギーがある場合には、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」(環境省/経済産業省)を参照して、エネルギー量を算出してください。「メタン」「一酸化二窒素」「ハイドロフルオロカーボン類」「パーフルオロカーボン類」「六フッ化硫黄」「三フッ化窒素」については、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」(環境省/経済産業省)を参照し、各々の事業者にあった項目を集計表に追加してください。参考として、附属文書にエネルギー起源のCO<sub>2</sub>以外の6.5ガスについての集計表を掲載してあります。



### ③水使用量

期間： 年 月 ～ 年 月

	単位	年				金額 (円)
		月 使用量	月 使用量	月 使用量	合計	
上水	m <sup>3</sup>					
工業用水	m <sup>3</sup>					
地下水	m <sup>3</sup>					
海水、河川水	m <sup>3</sup>					
雨水	m <sup>3</sup>					
<b>水使用量/金額合計</b>	m <sup>3</sup>					

- 水質汚濁防止法・下水道法に該当する場合には、③-2 総排水量も把握してください。
- 製品の製造において原材料等として投入される水は、⑥物質使用量として把握してください。
- サイト内で循環的に利用している分はここに計上せず、⑦サイト内で循環の利用を行っている物質等として把握してください。

### ④化学物質使用量

期間： 年 月 ～ 年 月

化学物質の種類	単位	使用量	金額 (円)	備考 (保管量等)
	kg			

○把握する化学物質は、原則として PRTR 制度対象物質とします。本表を用いて PRTR 制度対象物質以外について把握しても構いません。

- 製造、加工、修理等の工程及び原材料等で化学物質を含む製品を扱う事業者においては、製品に含まれる化学物質の使用量を把握します。原材料以外の主な化学物質を含む製品としては、洗浄剤、インク、グリス、塗料等です。
- 使用量は、年間購入量から期末の保管量を差し引いた量が使用量となりますが、把握が難しい場合は購入量でもかまいません。把握が可能な場合は、備考欄に保管量を記載してください。
- 対象となる化学物質使用量の把握方法は、化学物質を含む製品について、容器に記載された成分表をもとに対象となる化学物質の製品中に含まれる量を把握します。成分表が記載されていないまたは情報が不十分な場合は、製造元や卸売業者、小売業者に SDS\* を請求し、それをもとに製品中の化学物質含有量を把握します。把握した化学物質含有量に製品の年間使用量を掛けると、化学物質の年間使用量が算出できます。
- 金額は、購入量または使用量あたりの金額を記入します。

### 3. 環境への負荷の状況（取りまとめ表）

環境への負荷		単位	(N-2)年 (a)	(N-1)年 (b)	増減 (b-a)	N年 (c)	増減 (c-b)
①エネルギー使用量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>					
	( )	kg-CO <sub>2</sub>					
	( )	kg-CO <sub>2</sub>					
	合計	kg-CO <sub>2</sub>					
	金額	円					
②廃棄物排出量及び 廃棄物最終処分量	一般廃棄物	( )	t				
		( )	t				
	産業廃棄物	( )	t				
		( )	t				
		合計	t				
	最終処分量	t					
金額	円						
③-1水使用量	上水	m <sup>3</sup>					
	工業用水	m <sup>3</sup>					
	地下水	m <sup>3</sup>					
		m <sup>3</sup>					
	合計	m <sup>3</sup>					
	金額	円					
④ 化学物質使用量		kg					
		kg					
		kg					
	合計	kg					
合計	金額	円					

○経営管理に役立てるために金額欄を設けました。

○①温室効果ガス排出量（二酸化炭素）、②廃棄物排出量、③-1水使用量は必須項目です。④化学物質使用量はPRTR対象事業者のみ必須項目です。

### 別表（以下の付属文書を使用した場合）

環境への負荷		単位	(N-2)年 (a)	(N-1)年 (b)	増減 (b-a)	N年 (c)	増減 (c-b)
③-2 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>					
	下水道	m <sup>3</sup>					
	金額	円					
⑤エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 以外の温室効果ガス 排出量	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub> （二酸化炭素）（原燃料使用を除く）	t-CO <sub>2</sub>					
	廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源 CO <sub>2</sub> （二酸化炭素）	t-CO <sub>2</sub>					
	CH <sub>4</sub> （メタン）	t-CO <sub>2</sub>					
	N <sub>2</sub> O（一酸化二窒素）	t-CO <sub>2</sub>					
	HFC（ハイドロフルオロカーボン類）	t-CO <sub>2</sub>					
	PFC（パーフルオロカーボン類）	t-CO <sub>2</sub>					
	SF <sub>6</sub> （六フッ化硫黄）	t-CO <sub>2</sub>					
	NF <sub>3</sub> （三フッ化窒素）	t-CO <sub>2</sub>					
⑥物質使用量	資源使用量	kg					
	循環資源使用量	kg					
⑦サイト内で循環的利用 を行っている物質等	利用された物質量	kg					
	水の利用量	m <sup>3</sup>					
⑧総製品生産量または総 商品販売量	製品生産量等	kg					
	容器包装使用量	kg					

○⑧総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」は、売買の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含まれます。

## 附属文書

### ③-2 総排水量 (年間の総排水量が 50 トン以上を超える場合のみ、多量に排水する事業者のみ)

期間： 年 月 ~ 年 月

	単位	年				金額 (円)
		月排水量	月排水量	月排水量	合計	
公共用水域	河川	m <sup>3</sup>				
	湖沼	m <sup>3</sup>				
	海域	m <sup>3</sup>				
	<b>公共用水域 計</b>	m <sup>3</sup>				
<b>下水道</b>	m <sup>3</sup>					
<b>総排水量/金額合計</b>						

○再利用、処理等を行っていない雨水の排水については、対象外となります。

### ⑤ エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 以外の温室効果ガス排出量

期間： 年 月 ~ 年 月

	単位	年			
		月	月	月	合計
非エネルギー起源 CO <sub>2</sub> (二酸化炭素) (原燃料使用を除く)	t-CO <sub>2</sub>				
廃棄物の原燃料使用に伴う 非エネルギー起源 CO <sub>2</sub> (二酸化炭素)	t-CO <sub>2</sub>				
CH <sub>4</sub> (メタン)	t-CO <sub>2</sub>				
N <sub>2</sub> O (一酸化二窒素)	t-CO <sub>2</sub>				
HFC (ハイドロフルオロカーボン類)	t-CO <sub>2</sub>				
PFC (パーフルオロカーボン類)	t-CO <sub>2</sub>				
SF <sub>6</sub> (六フッ化硫黄)	t-CO <sub>2</sub>				
NF <sub>3</sub> (三ふっ化窒素)	t-CO <sub>2</sub>				

## ⑥ 物質使用量

期間： 年 月 ～ 年 月

		使用量 (t)	金額 (円)
資源の種類			
	<b>資源使用量 計</b>		
循環資源			
	<b>循環資源使用量 計</b>		
その他			
	<b>その他 計</b>		
<b>物質使用量合計</b>			

○資源の種類（循環資源も同様）

- ・金属（鉄、アルミ、銅、鉛等）
- ・プラスチック（種類毎）
- ・ゴム
- ・ガラス
- ・木材
- ・紙（用紙も含まれる）
- ・農産物 等

○使用時の状態

- ・部品、半製品、製品、商品
- ・原材料、補助材料、容器包装材

○まずは主要な物質から把握してください。物質使用量は、重量（単位はt）で把握してください。

○製品の製造において原材料等として使用される水や石油等は、物質使用量として把握してください。

○事業者内部で循環的に利用（再使用、再生利用、熱回収）している物質は対象外となります。

○物質使用量を把握するのが困難な場合には、総製品生産量または総商品販売量と廃棄物排出量を足し合わせて算出する方法もあります。

## ⑦ サイト内で循環的利用を行っている物質等

期間： 年 月 ～ 年 月

		単位	循環量
資源の種類		t	
		t	
	<b>利用された物質合計</b>	t	
水	水の再生使用量	m <sup>3</sup>	
	雨水の利用量	m <sup>3</sup>	
	<b>水の利用量合計</b>	m <sup>3</sup>	

○資源の種類

- ・金属（鉄、アルミ、銅、鉛等）
- ・プラスチック（種類毎）
- ・ゴム
- ・ガラス
- ・木材
- ・紙（用紙も含まれる）
- ・農産物 等

○サイト外からの物質使用量とは別に、サイト内で事業者が自ら実施する循環的利用型の物質量（水資源を含む）等を記載します。

⑧ 総製品生産量または総商品販売量

期間： 年 月 ～ 年 月

総製品生産量または総商品販売量 (t)	製品等名		単位	生産量・ 販売量	原材料ベースで の金額 (円/t)	金額 (円)
	製品または商品	重量		t		
			t			
			t			
			t			
			t			
<b>製品または商品重量合計</b>			t			
重量以外						
容器包装使用量			t			
			t			
			t			
			t			
			t			
			t			
	<b>容器包装使用量合計</b>		t			